

令和5年度 事業報告

財団法人シルクセンター国際貿易観光会館は、横浜開港 100 年記念事業として、神奈川県、横浜市及び関係団体の協力のもとに、生糸及び絹業を中心とする日本の産業貿易並びに観光事業の振興発展を図るために設立され、その目的達成のため昭和 34 年 3 月 12 日にシルクセンタービルをオープンし、長年、会館を運営してきました。

平成 26 年 4 月の一般財団法人への移行後も公益目的支出計画に基づき、絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要の促進、国際貿易及び観光の振興等の事業を積極的に展開しています。

令和 5 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が感染症法の 5 類感染症に位置づけられたことから、感染症対策として実施していた制限を緩和して事業の実施に努めました。

令和 5 年度における各事業の実施状況は、次のとおりです。

I 実施事業

公益目的支出計画の実施のため、公益事業として次の事業を行いました。

1 博物館事業（継続事業）

絹知識の普及と絹製品の需要の促進に寄与するとともに、魅力ある博物館づくりをめざし、常設展示の充実や、主に県内小学校を対象とした蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等に取り組みました。また、春の企画展として所蔵品展「絹を彩る鳥たち」、秋は特別展「第 27 回全国染織作品展」を開催しました。

(1) 展示事業

ア 常設展示

学校教育活動や生涯学習の場として活用できるわかりやすい展示、また、絹による服飾工芸品の鑑賞の場として、魅力ある展示となるよう努めました。特に、収蔵作品の公開と保存のバランスを考慮し、適宜展示替えを行いながら江戸の小袖や優れた現代作家の染織作品などを紹介しています。また、日本の復元時代風俗衣装人形のうち、奈良時代、鎌倉時代、大正時代の着替えを実施しました。

イ 春の企画展

シルク博物館所蔵品展「絹を彩る鳥たち」

[会 期] 令和5年4月22日(土)～6月4日(日)

人が古来、植物、動物、風景や自然現象などから生み出し用いてきた様々な模様のひとつに、鳥を表した模様があります。本展では、江戸時代後期の小袖や大正時代の婚礼衣装、重要無形文化財保持者による作品等を通し、さまざまな技巧をこらして表現された、色とりどりの素晴らしい鳥の世界を展示紹介しました。

ウ 秋の特別展

「第27回 全国染織作品展」

[会 期] 令和5年10月21日(土)～11月26日(日)

絹は独特の光沢や風合い、染色性の良さなどを有し、古くから優れた高級衣料素材として用いられてきました。そして、古代から受け継がれてきた高度な染織技術は、日本の大切な伝統文化となっています。本展では、絹を用いた染織作品を広く全国から募集し、厳正な審査のうえ入選した作品を一堂に展観しました。本展を通じて、次代を担う新進作家の育成及び染織技術の向上と服飾文化の発展を図るとともに、絹の需要増進に寄与しました。

(2) 教育普及事業

ア 「チャレンジ!かいこプログラム」

(ア) 蚕種配布

a 学校対象

[期 間] 令和5年5月11日(木)～5月13日(土)

県内の小学校等を中心に、蚕の卵(蚕種)や人工飼料を有償頒布しました。また、指導者用資料として蚕種配布者全員に「蚕の飼育マニュアル」を配布するとともに、教員を対象とした蚕についての講座も開講しました。

b 個人対象

[期 間] 令和5年7月21日(金)～7月23日(日)

個人向けに蚕種を有償頒布しました。昨年度に引き続き、一般財

団法人大日本蚕糸会が主催する全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2023」の対象イベントとして、他の蚕糸関係博物館6館とともに参加しました。

(イ) 「かいこ教室」

[期 間] 令和5年7月29日(土)～8月13日(日)

小学生等が蚕からシルクまで一貫して学べるように、保存蚕品種・野蚕の飼育展示、蚕の生体観察の他、繭人形、生糸のランプシェード、真綿のスタンドを作る体験等を実施しました。

(ウ) 団体見学・ワークショップ

[期 間] 団体見学 随時

ワークショップ 毎月1回程度開催

小学生等の蚕についての理解促進を図るため、小学校の団体見学を積極的に受け入れるとともに、子ども向けの繭や真綿を使った人形作りのほか、生きた蚕の観察とシルクについての勉強会などのワークショップを開催しました。

(エ) 「たのしいかいこの発表会」

[期 間] 令和5年12月12日(火)～令和6年1月21日(日)

「チャレンジ！かいこプログラム」の締めくくりとして、小学生や幼稚園児などが作成した蚕の観察記録や繭・生糸を使った作品等を募集し、展示、表彰しました。

イ 実演・講習会

くみひもストラップ作り体験、手作り真綿の実演・講習会、真綿からの太糸作り実演、手紬糸作り実演、ハンカチ染め体験などを開催し、繭、生糸、真綿、絹への理解促進に努めました。

ウ 外部講師による講座

「生糸の貿易港・横浜 ～関東大震災からの百年～」

[開催日] 第1回：令和6年1月13日(土)

第2回：令和6年2月24日(土)

第3回：令和6年3月9日(土)

大正12年9月に発生した関東大震災から百年を経て、震災前後の横浜と蚕糸業の歴史について、専門家を講師に招き全3回にわたり様々な側面から考察しました。

エ 学芸員によるギャラリートーク

〔開催日〕令和5年4月1日(土)、9月16日(土)、

令和6年2月3日(土)

常設展示に沿って案内しながら、蚕や絹、染織品など多彩な話題を学芸員が来館者へわかりやすく解説しました。

オ 博物館実習生の受入れ

〔期 間〕令和5年7月26日(水)～8月15日(火)

学芸員養成に協力するとともに当博物館を広く周知し、絹に対する理解と関心を深めていただくため、10名の学生を受け入れ、講義と普及活動の実践(蚕の飼育も含む)などの実習を行いました。

(3) 連携事業

ア 全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2023」

〔期 間〕令和5年7月21日(金)～7月23日(日)、

令和5年7月29日(土)～8月13日(日)

一般財団法人大日本蚕糸会と各地の蚕糸関係博物館等で実行委員会を立ち上げ、各館が開催する「かいこの飼育体験」等の催事を通じて蚕糸業への理解を深めていただく取り組みに参加しました。

イ ミニ企画展示「横浜スカーフ物語。その歴史を継いだ立役者たち」

〔期 間〕令和5年12月2日(土)～令和6年1月21日(日)

横浜市歴史博物館及び関東学院大学と連携して、横浜スカーフアーカイブ資料を展示しました。

ウ 「シルキークリスマス」

[開催日] 令和5年12月17日(日)

若い世代を中心に幅広い世代の方々に、楽しくシルクを理解し関心を深めていただくことを目的として、関東学院大学、クラシック・ヨコハマ等と連携してクリスマスイベントを実施しました。

(4) 広報事業

新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関、小・中学校、服飾関係学校、ホテル、旅行会社等への広報、ポスター掲示などのPR活動を行うとともに、ホームページやX(旧Twitter)の積極的な利用や、催し物案内を発行するなどして周知に努めました。

(5) 博物館月別入館者数(別紙)

2 シルク等普及推進事業(継続事業)

神奈川県在地場産業であるシルク産業の振興を支援するため、業界団体等の宣伝、シルクの普及、販売促進活動等の支援に努めました。

(1) シルク等普及活動事業

ア 「シルキークリスマス」(再掲)

[開催日] 令和5年12月17日(日)

若い世代を中心に幅広い世代の方々に、楽しくシルクを理解し関心を深めていただくことを目的として、関東学院大学、クラシック・ヨコハマ等と連携してクリスマスイベントを実施しました。

イ 「かながわシルクフェア」

県産品の伝統産業であるシルク製品の普及・啓発及び販路拡大等を図るため、シルク製品に関わりのある団体及び神奈川県と連携協力のもと「かながわシルクフェア」を開催し、生糸、シルクの魅力の周知に努めました。

(2) 施設を活用しての普及活動支援事業

ア シルクミュージアムショップの運営支援

横浜のシルク産業を支援するため、博物館内のミュージアムショップ出店業務を横浜シルクミュージアムショップアソシエーションに委託しました。

イ 催事場等による支援

県民・市民の文化芸術活動の振興、地域社会への横浜のシルク産業の振興等を図る活動を支援するため、催事場やギャラリースペースの貸与を行いました。

別紙 博物館月別入館者数

(単位：人)

区分 月別(開館日数)		日本人			外国人			入館者計	(前年度) 入館者計
		一般 シニア 学 子 学 生 児 童	団体	計	一般 シニア 学 子 学 生 児 童	団体	計		
令和 5年	4月 (22日)	848	136	984	179	59	238	1,222	938
	5月 (26日)	1,626	650	2,276	91	1	92	2,368	2,403
	6月 (22日)	886	806	1,692	69	1	70	1,762	2,488
	7月 (26日)	969	246	1,215	87	58	145	1,360	1,489
	8月 (25日)	1,354	461	1,815	106	0	106	1,921	1,781
	9月 (24日)	743	664	1,407	90	0	90	1,497	1,231
	10月 (22日)	816	184	1,000	197	47	244	1,244	1,931
	11月 (23日)	1,502	884	2,386	182	200	382	2,768	2,107
	12月 (21日)	1,447	104	1,551	105	0	105	1,656	1,718
令和 6年	1月 (23日)	1,076	439	1,515	38	2	40	1,555	1,280
	2月 (24日)	780	476	1,256	87	17	104	1,360	1,810
	3月 (27日)	826	491	1,317	178	4	182	1,499	1,405
合計 (285日)		12,873	5,541	18,414	1,409	389	1,798	20,212	20,581
月平均 (24日)		1,073	462	1,535	117	32	150	1,684	1,715

()内は開館日数

Ⅱ その他事業

公益目的支出計画の安定的な実施のため、収益事業として次の事業を行いました。

1 部室賃貸事業

ホームページを活用したPRに加え、不動産会社に仲介及び広告業務を委託し、テナントの誘致を積極的に展開するとともに、良質な部室の提供や執務環境の整備に努め、入館率の一層の向上をめざしました。

(1) 部室の賃貸業務

ア 部室賃貸等収入

部室賃貸料金	380,037千円
諸料金	93,613千円
計	473,650千円

(2) 建物及び諸設備等の維持向上

当ビルは、建築から60年以上が経過しており、建物及び諸設備等の維持管理が大変重要な課題になっています。本年度においても会館の財務状況を踏まえつつ、耐震補強工事等の実施により、建物設備の安全の確保や長寿命化を図るとともに、良好な執務環境の整備に努めました。

本年度中に実施した重要な設備投資は次のとおりです。

耐震補強工事（M2階内部第1・2期工事）	70,455千円
耐震補強工事関連経費	11,124千円
防火シャッター（2～4階）更新工事	9,900千円
部室補修工事	4,154千円
積算電力計及び水道メータ更新工事	2,321千円
別館排煙窓交換工事	2,200千円
電力管理システム更新工事	2,024千円
1階正面自動ドア扉交換他工事	3,259千円
計	105,437千円

(3) 保全管理関係

建物の環境衛生については、ビル衛生管理法に基づき定期的に測定を行い、また諸設備の点検には充分留意し、保全管理の徹底を図りました。

2 附帯事業

入館者等の利便に供するため、立体機械式車庫並びに平面駐車場の適切な管理運営に努めるとともに、正面玄関前の平面駐車場はタイムズ24(株)に運営委託しました。

(1) 立体機械式車庫収入

車庫使用料金 9,442千円

(2) 平面駐車場収入

駐車場使用料金 25,061千円